

静岡県沿岸には過去4000年間にレベル2の津波は襲来していない

静岡大学提供
作成日 2016年2月8日
更新日

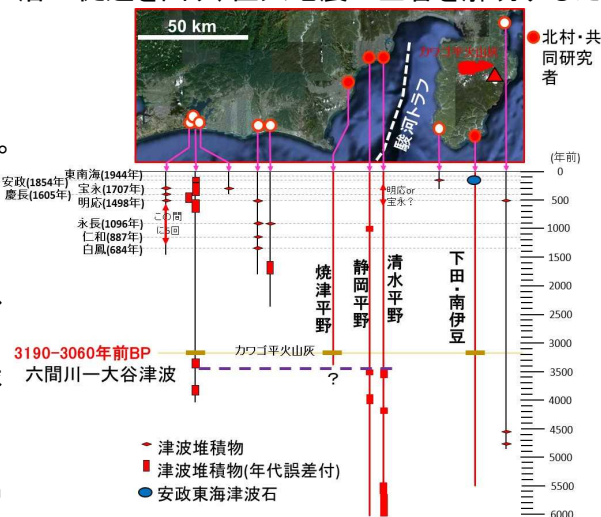


研究者氏名 きたむら あきひさ 北村 晃寿	所属機関 静岡大学理学部	関連キーワード(複数可) 地質学, 古生物学, 第四紀学, 南海トラフ, 巨大地震, 巨大津波, 静岡, 海岸低地, 津波堆積物, レベル2
主な研究テーマ ・静岡県中・東部における津波堆積物と地殻変動に関する研究		主な採択課題 ・基盤研究(B)平成26~28年度(配分総額:14,560千円) 課題名「南海トラフ東端における津波堆積物と地殻変動に関する研究」

① 科研費による研究成果

内閣府の中央防災会議は、2012年に南海トラフで起こる巨大地震に伴う「あらゆる可能性を考慮した最大クラス(レベル2)の津波の高さ」を公表し、これまで防災対策の対象としてきた「東海地震、東南海地震、南海地震とそれらが連動するマグニチュード8程度のクラスの地震」による津波をレベル1とした。その結果、例えば、静岡県下田市・南伊豆町沿岸のレベル2(25m)はレベル1(5-6m)より20mも高く、住民の関心は高い。このレベル2の想定を発表とともに、中央防災会議は想定は限られた科学的知見に基づくので、古文書調査や津波堆積物調査等の一層の促進を図り、巨大地震の全容を解明するため努力が必要と述べている。

一方、静岡県中・東部では先史時代の古津波の調査は全く行われていない。こうした状況を踏まえ、我々は下田市・南伊豆町沿岸、清水平野、静岡平野、焼津平野で津波堆積物を調査してきた結果、静岡県中・東部の約4千年間の地層記録からは、レベル2の津波堆積物は検出されていない (Kitamura 2016, Progress in Earth and Planetary Science. 3:12)。



② 当初予想していなかった意外な展開

・メディアの取材

・南伊豆町、静岡平野、清水平野、焼津平野における津波堆積物調査。(地方新聞)

<http://homepage3.nifty.com/a-kitamura/gyoseki.htm>

・下田市鍋田海岸の大浦湾で安政東海地震に伴う津波石の発見。(NHK静岡, 静岡新聞など)

<http://homepage3.nifty.com/a-kitamura/izu%20Tsunami%20boulder.pdf>

・下田市周辺の地震性隆起と、下田沖の活断層(静岡新聞など)。上記URL

・焼津市の津波堆積物と海底地滑り(NHK静岡、静岡新聞など) <http://homepage3.nifty.com/a-kitamura/>

地域貢献活動 講演会

<http://homepage3.nifty.com/a-kitamura/gyoseki.htm>

③ 今後期待される波及効果、社会への還元など

・南海トラフで発生する大地震・津波に関する基礎データの収集。

・レベル2の見直しに関わる基礎資料の提供。

・未知の地震・津波災害の検出。